

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標1:儲かる地域をつくとともに、安定した雇用を創出する

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価	R6年度実績値の要因分析
農業総収入額	48.3億円	49.3億円	54.1億円	A	【R6実績値の要因分析】 自然災害の影響を受けなかったことで安定した収量の確保に繋がり、また、米価の値上がりにより、農業総収入が目標値を上回る結果となった。
木材生産量	6,023m ³	6,504m ³	15,808m ³	A	【R6実績値の要因分析】 外国産材の輸入量の減少により、ここ数年は目標値を大きく上回る生産量となっている。また、製紙用・燃料用向けの素材需要は多くあるため、安定的に生産量が推移している。
町内企業の新規就業者数 (新卒採用)	0	40人	15人	D	【R6実績値の要因分析】 町内企業において新規就業者を募集しても応募がない状況があり、目標値を下回る結果となった。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(1)農産物の高付加価値化及び安定した販路の確保					
農産物加工に取り組んでいる農家数	19戸	25戸	24戸	B	【R6実績値の要因分析】 町ホームページや農事組合を通じた周知や窓口での声掛けなどを行い、町単独の補助金で既存商品のリニューアルに取り組んだ農業者はいたが、新たな取組者を確保することはできなかった。
(2)農業を担う人材の育成					
認定農業者経営体数	259経営体	254経営体	191経営体	B	【R6実績値の要因分析】 地域農業の担い手確保のため、新規認定者を7名確保したものの、高齢や病気を理由に再認定を断念した認定農業者が23名おり、目標値の達成に至らなかった。
(3)林業の育成に向けた基盤づくり					
林道密度	5.66 m/ha	5.81 m/ha	5.88 m/ha	A	【R6実績値の要因分析】 林業専用道大滝線支線及び水無沢線において開設工事を進めていることから、林道延長が増加し、目標値を上回る結果となった。
森林保全を目的とした施業面積	206ha	271ha	181ha	C	【R6実績値の要因分析】 森林保全を目的とした森林整備のうち、国有林における施業面積は前年度より2.16ha減少し、民有林における林業事業体(林業公社造林等)の施業面積は50.25ha増加したが、目標値の達成には至らなかった。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(4)町内事業所の稼ぐ力向上及び新規創業への支援					
創業支援事業に係る受講者数	56人	56人	19人	D	【R6実績値の要因分析】 物価高などの影響により、創業よりも安定した雇用を選択する傾向がみられ、金融機関等で主催するセミナーへの受講者が減少したため、目標値を下回る結果となった。
(5)若年世代の就職支援					
合同企業説明会への参加者数	0	50人	44人	B	【R6実績値の要因分析】 合同企業説明会は、会津西陵高校の3年生を対象としたブース形式の企業説明会であり、高校側の協力を得られたものの、生徒の進学意識により、目標値を下回る結果となった。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標2:本町と多様に関わる人を増やし、新しい人の流れをつくる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
人口における社会動態(転入-転出)	△ 58人	△ 33人	△ 72人	D	【R6実績値の要因分析】 転出超過となっており、特に10~20代の若い世代が大学等進学や就職のために多く転出することや、希望する就職先が地元が少ないことが主な要因として考えられる。
関係人口の創出に取り組む企業・団体・個人の数	0	4件	3件	B	【R6実績値の要因分析】 1団体が会員の高齢化等を理由に解散したことにより前年比△1件となり、目標の達成に至らなかった。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(1)観光を入口とした交流人口及び関係人口の創出					
町内宿泊施設の宿泊者数(年間)	16,155人	16,550人	13,058人	B	【R6実績値の要因分析】 目標には届かなかったが、前年から1,679人増加している。小規模事業者の宿泊数が減少しており、オンラインやSNS等を活用したプロモーションや情報発信ができていない。
観光施設の入込客数	57,000人	63,000人	23,000人	D	【R6実績値の要因分析】 新鶴温泉など増加している施設もあるが、会津本郷焼物組合や会津本郷焼窯元の入込客数が減少している。毎月の来訪者が減少傾向にあり、実績値には反映されていない向羽黒山城の来訪者を取り込めていない。
レンタサイクル貸出件数	76件	90件	126件	A	【R6実績値の要因分析】 増加傾向にある向羽黒山城跡への来訪者や、会津本郷焼の窯元を巡る際に利用されることが多くなっている。
(2)空き家の利活用による移住・定住の促進					
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	51件	75件	A	【R6実績値の要因分析】 令和6年度は、16件(売買13件、賃貸3件)の空き家が成約となり利活用され、移住定住の促進につながった(令和5年度累計59件)。空き家の増加とともにニーズも増え、空き家バンク登録相談と、空き家利活用相談は増加傾向にある。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(3)移住・定住の促進					
定住した地域おこし協力隊員の数(累計)	0	7人	9人	A	【R6実績値の要因分析】 令和6年度に任期満了となった隊員は5名いた。内3名は町内に定住し、外2名は会津若松市へ転出した。転出した2名についても、町内起業に就職している。協力隊制度として任期を満了した5名が地方に定着したことは会津美里町のサポート体制の充実が大きな要因となっている。
移住・定住相談窓口を通じた移住・定住世帯数(累計)	26世帯	61世帯	202世帯	A	【R6実績値の要因分析】 移住定住支援業務を民間委託し専任のコーディネーターを配置していることにより、きめ細やかな相談体制の充実に努めることができた。また、移住定住者に対する住宅取得費補助金が大きな要因となっている。
住宅新築・増改築件数	121件	68件	58件	B	【R6実績値の要因分析】 目標値を10件下回った。若年層の町外流出をはじめ、物価上昇による建築費用の上昇や、金利上昇による資金調達の困難化により、減少傾向が続いている。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(4)小中学生及び高校生のまちづくりへの参画					
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(小学6年生)	81.0%	91.5%	82.8%	B	【R6実績値の要因分析】 全国学力・学習状況調査の児童質問紙による評価指数であるが、令和6年度はこの質問項目が存在せず、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の数値とした。単純比較はできないが、基準値、昨年度の数値よりも改善しており、総合的な学習の時間などにおける地域探究学習や、コミュニティスクールによる地域との連携が進んでいく中で、子どもたちの地域への関心が高まってきていると考えられる。
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(中学3年生)	61.8%	76.0%	71.3%	B	【R6実績値の要因分析】 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙による評価指数であるが、令和6年度はこの質問項目が存在せず、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の数値とした。単純比較はできないが、基準値、昨年度の数値よりも改善しており、コミュニティスクールによる地域との連携が進んでいく中で、子どもたちの地域への関心が高まってきていると考えられる。小学生よりも実績が低い要因としては、発達段階として、出身自治体を超えて自分の夢を達成したいという思いが生まれることが考えられる。全国や県の傾向も同様である。
高校生が参画する地域課題解決の取組件数	0	1件	1件	A	【R6実績値の要因分析】 会津西陵高校において総合的な探求の時間の一環として5分野33班により地域課題解決に向けた取組が行われた。
(5)大学等との学官連携の推進					
町と大学等が共同で取り組む調査研究事業件数(累計)	3件	10件	12件	A	【R6実績値の要因分析】 「森林資源の利活用のための地域内経済循環システムの構築」について調査研究を行った。町及び大学が連携し、昨年度取りまとめた森林を核とする地域資源活用の案に係る実証実験の計画を作成した。
(6)ふるさと納税を通じた資金調達及び関係人口の創出					
3年連続または返戻品なしで本町にふるさと納税を行った寄付者の数	116人	106人	162人	A	【R6実績値の要因分析】 前年と比較し、3年連続寄付者は微減し、返礼品なしの寄付者は微増しているがおおむね横這いとなっている。寄附申込の際のアンケート結果からは、返礼品に魅力を感じている方と会津美里町を訪れたことのある方の割合が増加している。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
年間出生者数	113人	100人	68人	C	【R6実績値の要因分析】 目標値100人を32人下回り、対前年比で1人減となった。20～39歳の人口を令和6年4月1日時点と令和7年4月1日時点で比較すると121人減少しており、子育て世代の人口が減少していることが主な要因と考えられる。
子育てしやすい環境(育児や保育など)のまちだと思ふ町民の割合	76.5%	82.0%	65.9%	B	【R6実績値の要因分析】 健康ふくし課内にこども家庭支援室を設置し、母子保健や児童福祉などのこども施策窓口の一元化を図り、妊娠期、出産、子育て期と切れ目のない支援に繋がるよう各種事業を実施するとともに、園内外の研修を通して保育士の資質の向上を図り、保育の質を高めながら保護者の声に寄り添ったサービス提供に努めたことにより、対前年比1.3ポイントの増となったものの、目標値は大きく下回った。要因としては、依然として経済的支援を求める声が多くあることや、支援員の確保ができず児童クラブ待機児童の解消が図られなかったことなどが考えられる。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(1)出会いと結婚の支援					
婚活事業によるカップル成立数	0	3件	9件	A	【R6実績値の要因分析】 町補助金を活用したイベントによるカップル成立数が2件、委託事業による婚活イベントでのカップル成立数が7件となった。事業について参加者に浸透してきており、参加者が増え、出会いの機運醸成につながった。
婚活事業又は結婚相談員による結婚成立件数(累計)	0	5件	6件	A	【R6実績値の要因分析】 令和6年度中の結婚成立件数は0件であった。結婚にまで至るかどうかは相性の問題もあるため、サポートにより必ずしも成婚数に紐づくものではない。引き続き結婚・子育てコンシェルジュのサポートやみさと縁結びサポーターの支援を継続していく。
(2)妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援					
子育て支援教室(ミルク教室)に参加した子どもの数	258人	242人	85人	D	【R6実績値の要因分析】 出生数の減少や1歳からこども園に入所する幼児の増加などによりミルク教室の参加者が減少していると考えられる。
こども園・児童クラブの待機児童の数	3人	0人	36人	D	【R6実績値の要因分析】 (児童クラブ)少子化の状況にあるものの、核家族化や共働き世帯の増加等により学童保育の希望は増えている。特に、高田児童クラブと本郷児童クラブでの待機児童が多い。なお、本郷児童クラブにおいて待機児童解消のため、空き教室の場所確保に務めたが、支援員が確保できず、解消に至らなかった。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(3)安心して出産・子育てしながら働くことができる環境づくり					
町内の主な企業の育児休業取得率(男性)	4.1%	6.0%	8.1%	A	【R6実績値の要因分析】 事業所アンケートに回答した62事業所のうち5事業所(8.1%)において男性の育児休業が取得されていた。これらの事業所では、従業員が育児休業を取得しやすくするため、職場全体の意識を変える従業員研修や制度利用しやすい雰囲気づくりのための管理職研修、相談窓口の設置、業務のマニュアル化や分担見直しといった取組を行っており、男性従業員の育児休業取得につながっているものと考えられる。
町審議会・委員会における女性の割合	23.4%	28.1%	28.0%	B	【R6実績値の要因分析】 各種審議会等への女性委員の登用促進を進めたものの、女性登用率は28%となり、対前年比で1.1ポイント減少した。令和6年度は総合計画審議会(委員数12名、うち女性委員4名)を設置し、各種審議会等全体では委員数は対前年比で10名増加した一方で、女性委員の数は増減なしに留まり、女性登用率が低下した。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標4:質の高い安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
防災・消防体制が充実していると感じる町民の割合	67.0%	77.4%	63.5%	B	【R6実績値の要因分析】 町民の防災意識の高揚を図るため、防災訓練や出前講座などの啓発活動を行ったが、前年度と同程度の実績となった。全国的に災害が多発しており、住民の災害に対する意識が高まっていることにより、相対的に基準値と比較して低くなったと考える。
地域の活動が活発化し、魅力ある地域がつくられていると感じる町民の割合	49.8%	52.0%	47.6%	B	【R6実績値の要因分析】 対前年度比1.2ポイント改善しているものの、目標値未達(-4.4ポイント)となっており、地域活動が活発であるとはいえず、魅力ある地域づくりの取組みには課題が多い状況である。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスによる地域活動への参加機会の減少、その間に進んだ急速な少子高齢化や人口減少等の様々な問題が起因していると考えられる。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(1)遊休資産の地域資源化					
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	51件	75件	A	【R6実績値の要因分析】 令和6年度は、16件(売買13件、賃貸3件)の空き家が成約となり利活用され、移住定住の促進につながった(令和5年度累計59件)。県外在住者の移住希望の相談は増加傾向にあり、空き家バンクのニーズが高まってきていることが要因と考えられる。
(2)持続可能な公共交通体系の構築					
美里あいあいタクシーの利用者数	25,922人	27,850人	24,350人	B	【R6実績値の要因分析】 R4にAI配車システムを導入し、目的地まで乗り継ぎなしで行けるフルデマンド方式になったこと、町民からの要望に応えR6から坂下厚生総合病院便の実証運行を開始したことにより利便性が向上し、利用者は年々増加傾向にある。一方、高齢者の移動手段として定着はしたものの、利用者が固定化している状況であるため、目標値を下回る実績となった。
(3)町民による主体的な地域活動の構築					
集落支援員の支援を受けて話し合いをしている地区の数	5地区	10地区	14地区	A	【R6実績値の要因分析】 令和5年度に行っていた新規の集いの場の設立や、自主防災組織の立ち上げ等については人員配置等の関係から停滞したが、旭地区における地域づくり団体「旭ねっばす」の運営支援を行うことにより、継続的な話し合いの機会を設けることができた。
図書館での図書貸出人の人口千人当たりの人数	0	545人	558人	A	【R6実績値の要因分析】 年間を通じた図書館イベントや毎月の図書館だより、HP等の広報、季節ごとの図書展示等が住民・利用者の読書意欲にも繋がりを、目標値を上回る結果になったと考えられる。
地域再発見事業や出前講座等を活用した郷土学習に参加した人数	12人	70人	378人	A	【R6実績値の要因分析】 郷土資料館の認知度が高まってきたことや、他機関や他事業と連携し、郷土学習の場を創出することができたことで、目標値を上回る結果になったと考えられる。

令和6年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率<100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

具体的な施策					
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R6目標値	R6実績値	評価(案)	R6年度実績値の要因分析
(4)健康で快適な生活づくりの推進					
実際にスポーツを行っている人の割合	35.4%	36.1%	36.0%	B	【R6実績値の要因分析】 ふれあいウォークや各地区でのスポーツ大会などの取組が実施できたことにより、一定の成果は見られたものの、令和7年2月の豪雪の影響により、町民ソフトバレーボール大会やポッチャ交流大会、スキー教室などのスポーツイベントが中止となった。さらに、積雪により町民の移動が困難となったことで、冬期間のスポーツ活動全般が制限されたため目標値を下回る結果になったと考えられる。
集いの場の設置数	28箇所	44箇所	55箇所	A	【R6実績値の要因分析】 集いの場は、住民が主体となり運営されているかどうかが重要となることから、地域活動の情報共有や関係者間のネットワークの構築を目的とした集いの場交流会を町内3か所において開催するなど、生活支援コーディネーターが中心となって積極的な設置支援活動を展開した結果、増加したと思われる。
(5)地域における防災力の強化					
消防団員数	825人	770人	678人	B	【R6実績値の要因分析】 高齢化等により団員数は減少している。消防行事の統合を行うことで団員の負担軽減を図り団員の負担を最小限に抑えたり、消防団員OBを機能別消防団員として再入団してもらった等の取組により減少数を最小限に抑えたが、結果として減少となった。
自主防災組織数	14箇所	30箇所	20箇所	C	【R6実績値の要因分析】 目標値には届かない結果ではあったが、出前講座や区長会総会などにおいて説明を重ね、高田地域の2地区で新たに組織を立ち上げることとなった。次年度において立ち上げる話もあるため、継続的に行政区と話し合いを続けたい。